

Analysis of Regional Financial Institutions in the Environment of Structural Changes

戴, 建中

<https://doi.org/10.15017/1500490>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（経済学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏名	戴建中			
論文名	Analysis of Regional Financial Institutions in the Environment of Structural Changes (経済の構造変化に直面する地域金融機関に関する分析)			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	磯谷明德
	副査	九州大学	准教授	堀 宣昭
	副査	九州大学	准教授	浦川邦夫
	副査	成城大学	教授	中田真佐男

論文審査の結果の要旨

本論文は、成熟した金融制度をもつ先進国である日本と、金融制度が成熟途上にある新興国である中国を事例として取り上げ、金融制度改革が金融機関の資金仲介機能に及ぼす影響を実証分析したものである。

第1章では本研究の問題意識を述べ、第2章では、分析対象となる日本と中国の地域金融制度を説明している。

続く3つの章では、合併を促進する施策が日本の信用金庫の生産性に及ぼした影響が分析される。第3章では、生産性の測定手法と仮説検定の手法の理論的背景を説明し、第4章で生産性を推定した後、第5章で生産性の経時的変動の要因を検証する。この結果、信用金庫の規模と生産性は「逆U字」の関係にあることが示唆される。

後半の2つの章では、自己資本比率規制の導入が中国の地域金融機関の貸出供給に及ぼした影響が分析される。まず第6章で理論モデルを提示し、第7章で計量分析を行う。この結果、変数間の内生性を考慮したうえでも、貸出供給と自己資本比率の間に正の相関が確認される。

最後の第8章では、分析の結論と意義、今後の課題がまとめられる。

当該分野には既に多数の先行研究があるが、いずれも実証分析の手法に問題があり、結論もそれぞれ異なっていた。本論文は、先行研究の欠点を克服する統計学的な分析手法を採用し、より頑健性の高い推定結果を提示した貴重な研究である。分析の結果からは、合併による地域金融機関の巨大化はむしろ経営効率を悪化させる場合があること、自己資本不足の金融機関が増加する金融危機時には、中央銀行の金融緩和策の効果が **Credit Crunch** で減殺されうること等、今後金融制度改革を予定している国々に対して有意義な政策的含意も提示されている。

以上の点から、本論文調査会は、戴建中氏から提出された論文「Analysis of Regional Financial Institutions in the Environment of Structural Changes」を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。